

平成 15 年度

病害虫発生予察特殊報(第 4 号)

平成 15 年 12 月 11 日
神奈川県病害虫防除所長

病害虫名：トルコギキョウえそ輪紋病
Iris Yellow Spot Virus (IYSV)
作物名：トルコギキョウ

1 発生経過

- (1) 秦野市の花き栽培ビニルハウスにおいて、トルコギキョウ 品種「ネイルマリネオ」「ネイルピーチネオ」「クリアマリネ」等の定植後の葉にえそ症状が発生し、平成 15 年 10 月 29 日に当所へ診断依頼があった。
- (2) 被害個体には糸状菌及び細菌は観察されず、ウイルス病と思われる症状が見られたため同日に農業総合研究所へ同定依頼した。
- (3) 農業総合研究所で試料をペチュニアに接種したところトスボウイルス属の症状が見られた。さらに、RT-PCR 検定の結果 *Iris yellow spot virus (IYSV)* による病害と判定された。
- (4) 本ウイルスによる病害は、平成 8 年に千葉県のアルストロメリアで初発生し、平成 13 年から本年までに千葉県、静岡県、佐賀県、大分県、長野県、福岡県、高知県のトルコギキョウ、アルストロメリア、ニラで確認されているが、本県では初めての発生である。

2 病徴および病原の性質と伝搬

- (1) 発生ほ場で観察された病徴は葉のえそ斑点及びえそ輪紋、上位葉の萎縮、茎のえそとそれによる萎凋である。他県では株の萎縮、葉の黄化、花弁の斑入り等の症状も報告されている。
- (2) 本ウイルスは海外では花きのほかタマネギ等での発病も問題となる病害とされており、トマト黄化えそウイルス (TSWV) と同属で病徴も類似している。
- (3) 本ウイルスはネギアザミウマによって永続的に伝搬されることが知られている。種子伝染、土壌伝染はせず、接触伝染も通常はしないと考えられている。

3 防除対策

- (1) 媒介虫であるアザミウマの防除を徹底する。
- (2) 施設栽培では、寒冷紗を設置するなどして、アザミウマの侵入を阻止する。
- (3) 周辺の作物や雑草なども伝染源となる可能性があるため、当該作物以外でもアザミウマの防除や雑草防除などの環境整備につとめる。
- (4) 汁液伝染する可能性もあるため、手やハサミなどを使う作業には注意する。

アザミウマ類に登録のある薬剤

トルコギキョウに登録

薬剤名	倍率	安全使用基準
ジェイエース粒剤 ・ ジェネレート粒剤	1 ～ 2g / 株	発生初期・5回
スカウトフロアブル	2000	- ・ 5回
ペイオフME液剤	2000	発生初期・3回
マブリック水和剤20	4000	発生初期・2回

花き類に登録

薬剤名	倍率	安全使用基準
オルトラン粒剤	3 ～ 6kg / 10a	発生初期・5回
オルトラン水和剤	1000 ～ 1500	発生初期・5回
マラソン乳剤	2000 ～ 3000	発生初期・6回



幼苗のえそ斑点症状



えそ輪紋症状



上位葉の萎縮とえそ斑点症状
および下位葉のえそ斑点症状

神 奈 川 県 病 害 虫 防 除 所	
〒 2 5 9 - 1 2 0 4 平 塚 市 上 吉 沢 1 6 1 7	
T E L 0 4 6 3 - 5 8 - 0 3 3 3	
F A X 0 4 6 3 - 5 9 - 7 4 1 1	
テレホンサービス 0 4 6 3 - 5 8 - 6 6 1 2	
http://www.agri.pref.kanagawa.jp/boujoshu/top.asp	